

## 談話室

産経新聞 令和3年(2021年)1月7日(木)

### 就農3年目 夫の野菜に思う

大学生 岡口佳世 34

夫は農業を営んでいる。生まれ育った土地で、消費者に「うまっ!」と喜ばれる野菜を食べてもらえるよう、日々励む3年目の新規就農者である。

最近「野菜の値崩れ」という言葉をよく耳にする。

去年は台風が少なく天候

に恵まれたが、コロナ禍で外食産業が低迷し、需要が減少した。

このため農家は、出荷をしても利益が上がらない。出荷すればするほどマイナスになる。

だから安価か、もしくは廃棄するしかないのだという。わが家にとっても人ご

とではない。

市場に安価な野菜が並ぶことは、消費者にとっては喜ばしい。でも安価の理由を知り、生産者の置かれた状況や背景にまで、少し目を向けてほしい。

丹精込め手塩にかけて育てた野菜たちだ。甘めて家庭内廃棄がないよう、おいしく食べてもらいたいと心から願っている。

(奈良県桜井市)

※無断転載不可